

平成28年秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

1 冬キャベツ（11～3月）

主産地の動向・供給の見通し等

1 主な産地：

- ・作付面積は、千葉は前年比101%、神奈川・愛知は100%。
- ・生育状況は、千葉は日照不足による生育遅れとなっており小玉傾向。神奈川も1週間程度の生育遅れとなっている。愛知は9月の長雨で定植の遅れがあったものの、生育自体は回復傾向にある。
- ・出荷開始は、千葉で10月上旬、愛知で10月下旬、神奈川で11月上旬。

2 供給見通し

関東産地を中心に生育遅れが見られるため、12月の数量は平年より少ない見込み。1月以降は安定した出荷となる見込み。

3 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温はほぼ平年並か低く、降水量は東日本が多く、西日本は少ない、日照時間は東日本が少なく、西日本は多い見込み。

需要・価格の見通し

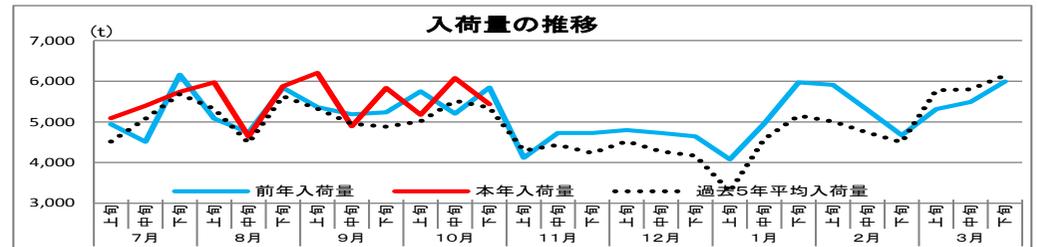
1 需要見通し

- 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、鍋物需要ではくさいが増加すると見込まれ、キャベツの増加は見込みにくい。
- また、天候不順による高値継続予測で、買い控えが懸念されるが、簡便化ニーズの高まりでカットキャベツが増加する可能性がある。

2 価格見通し

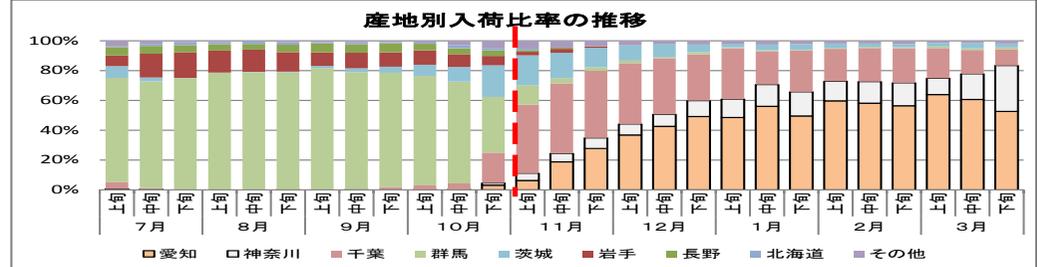
- ・9月の長雨・日照不足等により小玉傾向。年内は出荷数量は少なめで推移し、年明けからは回復傾向で、前倒し等の影響はあるものの、安定した出荷の見込み。このため、価格は、12月までは平年を上回り、1月以降は概ね平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等

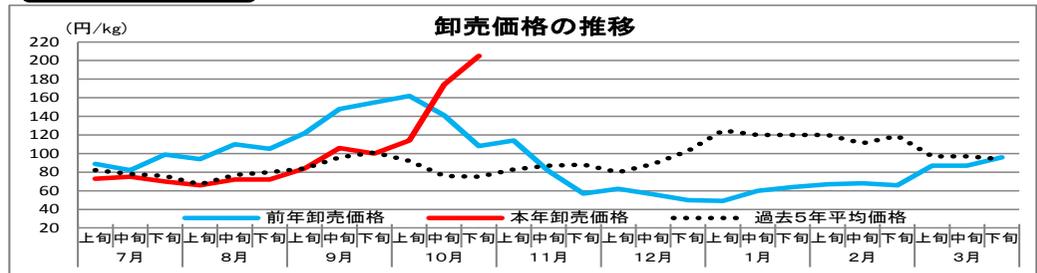


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↘	↘	→	→	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↗	↗	→	→	→

2 秋冬だいこん（10～3月）

主産地の動向・供給の見通し等

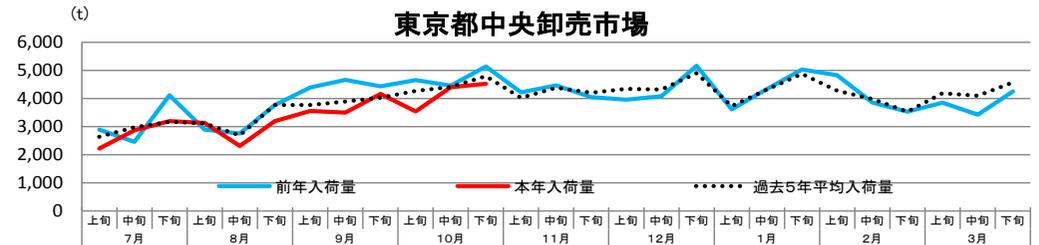
- 主な産地：
 - ・作付面積は、千葉・神奈川・長崎は前年比 100%、徳島は 96%。
 - ・生育状況は、千葉は 8 月下旬の台風以降、降雨の日が多く播き直しや生育遅れが見られる。神奈川は 1 週間～10 日程度の遅れ。徳島は 9 月の長雨で播種が進んでいない圃場がある。長崎も降雨等の影響で年内の出荷量に影響が出てくる見込み。
 - ・出荷開始は、千葉・長崎では 10 月、神奈川・徳島では 11 月。
- 供給見通し
 - ・各産地とも生育遅れ気味のため、年内の数量は平年より少ないが、年明け以降は平年並みの出荷となる見込み。
- この先 1 ヶ月の気象予報は、平均気温はほぼ平年並か低く、降水量は東日本が多く、西日本は少ない、日照時間は東日本が少なく、西日本は多い見込み。

需要・価格の見通し

- 需要見通し
 - 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、鍋物需要の増加の可能性も。ただし、鍋物のメニューに変化が無いとため、新たなヒット商品の開発、-halfカット等適量目の拡販がポイント。
 - 9 月の長雨と日照不足で生育が遅れている。1 2 月になれば関東近郊が出回ってくるが、他の品目につられて高値になり買い控えが懸念される。
- 価格見通し

9 月の長雨・日照不足等により肥大不足であり年内は出荷数量は少なめで推移し、年明け回復傾向。このため、価格は、1 2 月までは平年を上回り、1 月以降は概ね平年並みとなる見込み。ただし、冷え込みが厳しいと生育の回復が遅れるため、1 月以降も平年を上回る可能性。

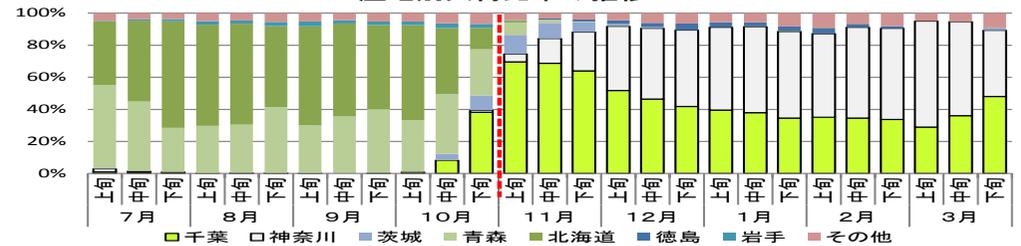
入荷量の推移等



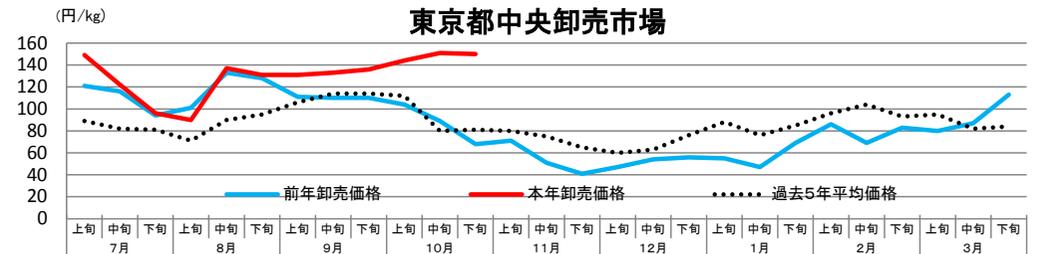
《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↘	↘	→	→	→

産地別入荷比率の推移



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↗	↗	→	→	→

3 たまねぎ（11～3月）

主産地の動向・供給の見通し等

- 主な産地：
 - ・作付面積は、北海道は前年比 96%。8月の台風や大雨による川の氾濫で流失した圃場がある。
 - ・生育状況は、北海道は台風での被害を受けたものの、それまでの生育が順調であったことから収量は良い。
 - ・出荷開始は、北海道の中生・晩生で平年並みの11月。

- 供給見通し
 - ・北海道の中生・晩生とも出荷期間を通じて概ね平年より多めの見込み。前年同様4月まで潤沢な出荷となる見込み。

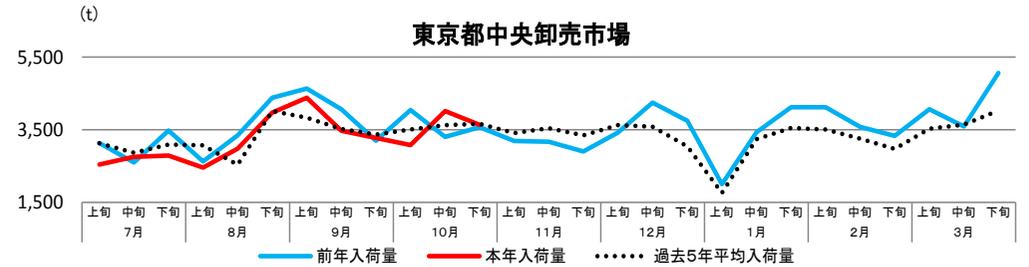
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温はほぼ平年並か低く、降水量は東日本が多く、西日本は少ない、日照時間は東日本が少なく、西日本は多い見込み。

需要・価格の見通し

- 需要見通し
 - 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、シチュー等のホットメニュー需要での増加が見込まれる。
 - 主産地の北海道産は、台風の影響（作柄は良、輸送は振り替え等に対応）は小さくなっているが、貯蔵物の品質劣化が懸念されるため、年明け以降の状況次第では中国産を含めた海外産に需要がシフトする可能性がある。また、値頃品であるバラ売り・均一規格が不足する懸念があり、小玉規格限定で輸入調達もありうる。

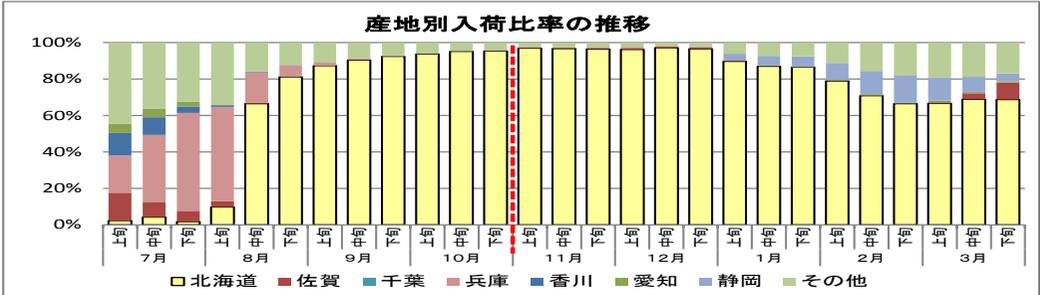
- 価格見通し
 - 入荷の大部分を占める北海道が、8月の台風で一部被害があったが豊作傾向であり、価格は平年を下回る見込み。

入荷量の推移等

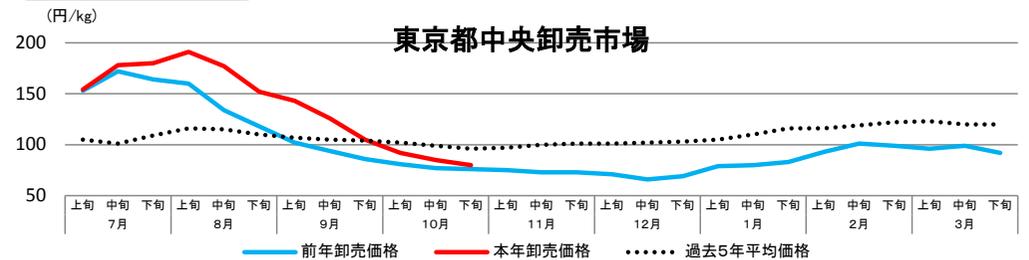


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↗	↗	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↘	↘	↘	↘	↘

4 冬にんじん（11～3月）

主産地の動向・供給の見通し等

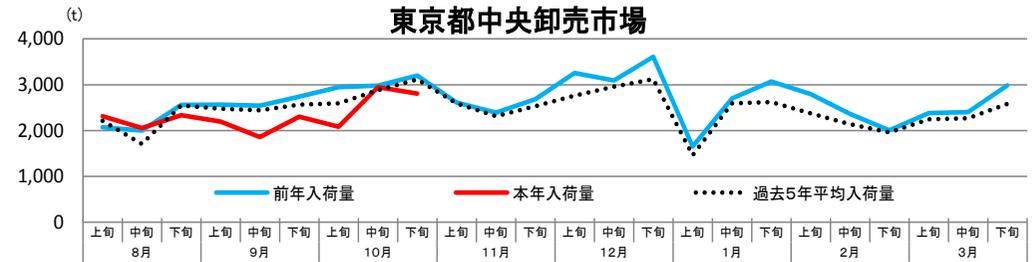
- 主な産地：**
 - ・作付面積は、千葉・長崎は101%。愛知は98%。
 - ・生育状況は、千葉は8月下旬の台風や9月の長雨の影響で7～10日程度の遅れ。冠水したため再播種した圃場もある。愛知は大きな被害はなく概ね順調な生育。長崎は、台風等の影響は少ないものの高温・多湿の影響で、一部で病気・害虫の影響が懸念される。
 - ・出荷開始は、千葉・長崎で11月上旬、愛知で11月中旬。
- 供給見通し**
 - ・8月下旬の台風で播種後に流された圃場があったことや、9月の長雨・日照不足等の影響で生育は遅れている。天候の回復にともない生育は回復する可能性も見込まれる。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温はほぼ平年並か低く、降水量は東日本が多く、西日本は少ない、日照時間は東日本が少なく、西日本は多い見込み。

需要・価格の見通し

- 需要見通し**
 - 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、シチュー等のホットメニュー需要での増加の可能性はあるものの、天候不順による高値継続予測で、買い控えが懸念される。値頃品に関しては輸入調達も考えられる。
 - 例年11月頃から関東近郊産地が出回るが、今年は生育が悪く、病気も発生しており出荷数量の減少が見込まれる。
- 価格見通し**

台風・長雨・日照不足の影響で、出荷期間を通じて平年を下回る見込みのため、価格は、出荷期間を通じて平年を上回る見込み。

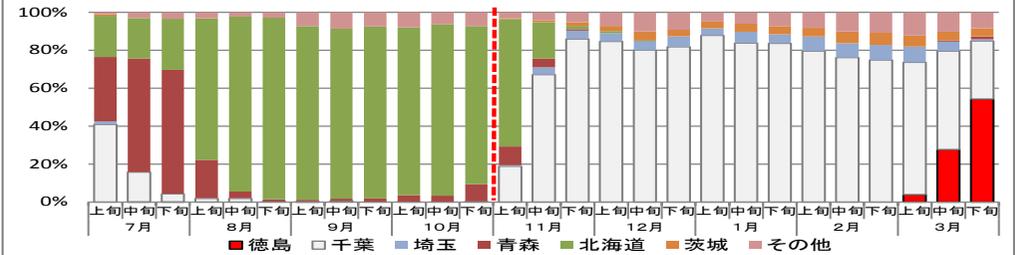
入荷量の推移等



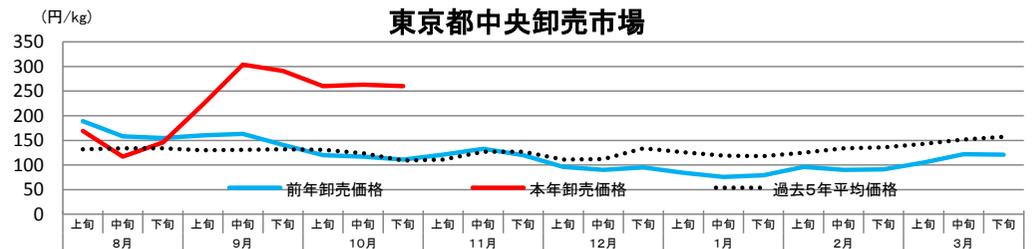
《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↘	↘	↘	↘	↘

産地別入荷比率の推移



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↗	↗	↗	↗	↗

5 秋冬はくさい（10～3月）

主産地の動向・供給の見通し等

1 主な産地：

- ・ 作付面積は、茨城は前年比 100%、愛知は 92%、兵庫は 111%。
- ・ 生育状況は、茨城は定植遅れがあるものの大きな影響なく生育は順調。愛知は、播種作業の遅れと低温等の影響で生育は遅れ気味。兵庫は、断続的な降雨の影響で定植作業が最大 3 週間ほど遅れている。
- ・ 出荷開始は、茨城で 10 月上旬、兵庫で 12 月上旬、愛知で 12 月中旬。

2 供給見通し

- ・ 茨城は概ね平年並みの出荷が見込まれるが、愛知は生育遅れで年内数量は少ない見込み。兵庫は定植遅れと根傷み等の影響で年内の出荷量は少なくなる見込み。

- 3 この先 1 ヶ月の気象予報は、平均気温はほぼ平年並か低く、降水量は東日本が多く、西日本は少ない、日照時間は東日本が少なく、西日本は多い見込み。

需要・価格の見通し

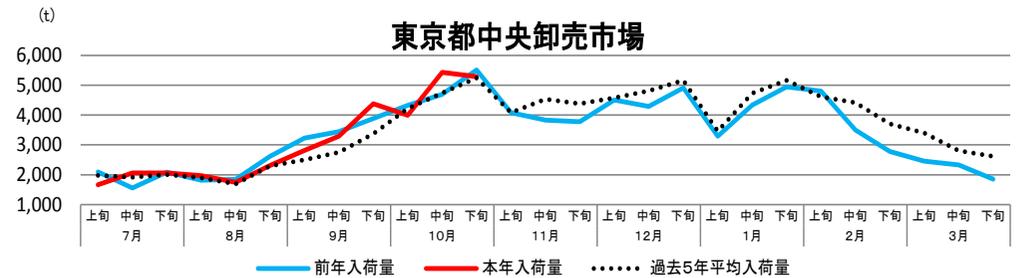
1 需要見通し

- 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、鍋物需要での増加を見込む。
- なお、品薄は 1 2 月まで続く可能性もあるが、天候不順による生育遅れは回復しつつある。

2 価格見通し

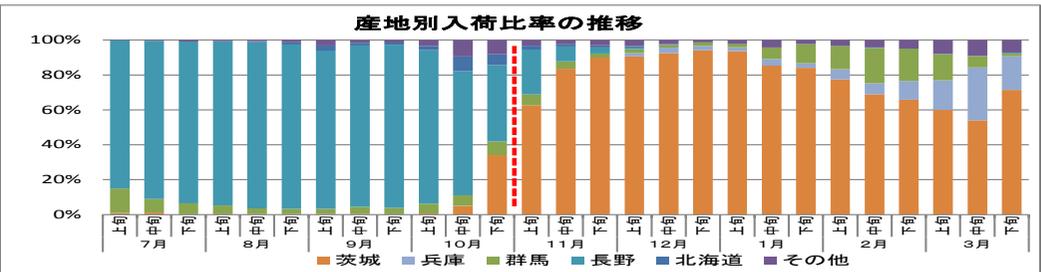
出荷については、愛知産や兵庫産が生育遅れ等により少なめと見込まれることから、価格は、1 2 月までは平年を上回り、1 月以降は平年並みを見込む。ただし、播種・定植作業が遅れたほ場の生育の回復が遅れた場合や、前倒し出荷により残量が少なくなった場合には、1 月以降も平年を上回る可能性。

入荷量の推移等

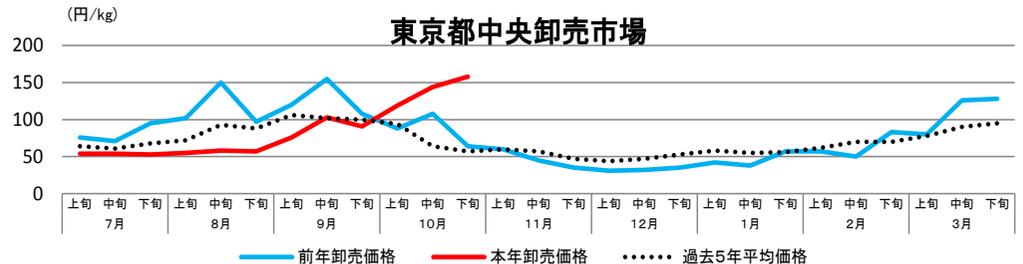


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↘	↘	→	→	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↗	↗	→	→	→

6 冬レタス（11～3月）

主産地の動向・供給の見通し等

- 主な産地：**
 - ・作付面積は、茨城・静岡は前年比100%、兵庫は104%、香川は102%。
 - ・生育状況は、9月の長雨の影響により茨城は播種をし直した圃場があった。静岡は年内出荷分の生育はやや遅れ。兵庫は作業に遅れが見られる。香川は9月中旬からしばらく定植のできない時期があった。
 - ・出荷開始は、茨城で9月下旬、香川で10月中旬、静岡で10月下旬、兵庫で11月上旬。
- 供給見通し**
 - ・各産地とも作業遅れや生育遅れが見られ、今後の出荷分は、12月上旬頃までは少なめとなり、同月中旬以降は回復する見込み。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温はほぼ平年並か低く、降水量は東日本が多く、西日本は少ない、日照時間は東日本が少なく、西日本は多い見込み。

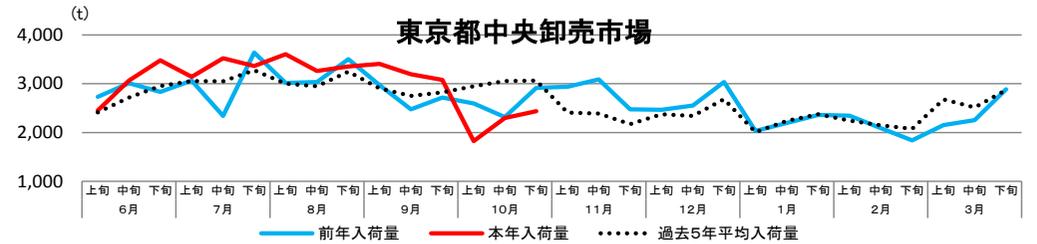
需要・価格の見通し

- 需要見通し**

☐カットサラダ等、簡便化ニーズの高まりは好材料。ただし、去年は暖冬でサラダ需要が高かったが、今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでているため、楽観視は出来ない。
- 価格見通し**

各産地の生育遅れ等から出荷が12月上旬までは少なめで、12月中旬以降は回復する見込みであることから、価格は11月までは平年を上回るが、12月以降は平年並の見込み。ただし、冷え込みが厳しいと生育の回復が遅れるため、12月は平年を上回る可能性。

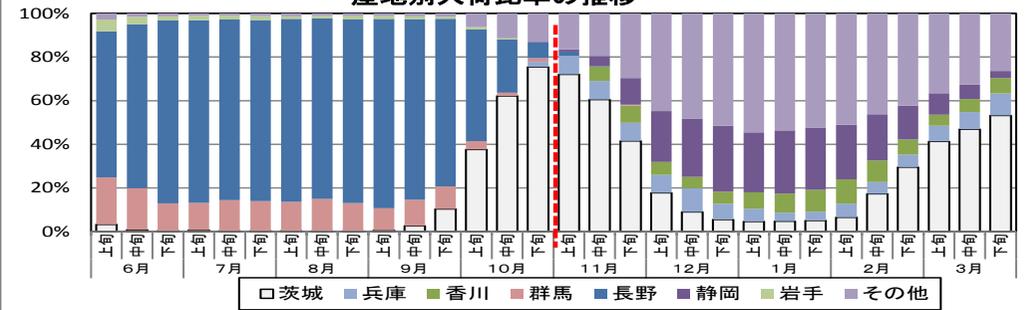
入荷量の推移等



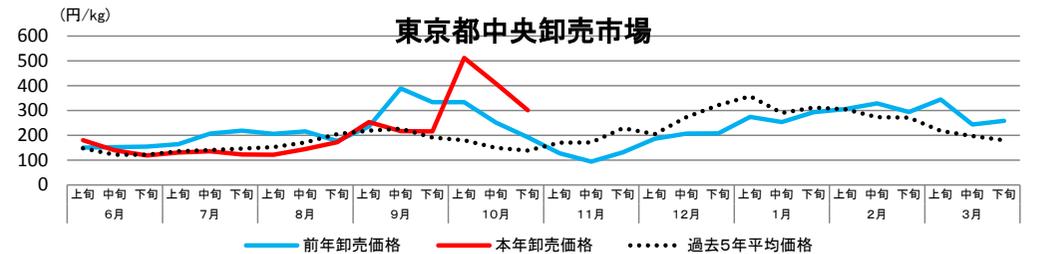
《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↘	→	→	→	→

産地別入荷比率の推移



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
平年比	↗	→	→	→	→

その他、秋冬野菜全体の主な消費の動向等

- ① 8月以降の台風の影響や日照不足により、国産野菜が小振り、キズ・割れ等の下位等級品が増え、上中位等級の割合が減少・不足する中で、卸売市場の入荷量が減少して野菜価格が高水準となっていますが、
- ・ 卸売市場等からの調達において、下位等級品の取り扱いを増やしていますか。また、こうした下位等級を売る際にどのような工夫をしていますか。
 - 品質における下位等級品の取扱いは増やしていない。ただし、にんじんを通常のLサイズからMサイズへ変更するなどの規格変更は実施している。小さいサイズへ変更する際には1本から3本袋にするなどで値頃感を出している。
 - 下位等級はあくまで「値頃品」である為、通常品比較で、「同価格で増量」か「同量で3割安」を基準に商品開発している。
 - 取り扱いを意識しなくても、自然に下位等級品の割合が高まっている。品質が悪い物は売場には出せない。
 - 現在は、農産物の秀品率が上がり、市場には下等品が出回っていない。集荷する卸売会社だけではなく、出荷者（生産者）も農産物の管理に苦勞をしている。
 - 販売先の出荷規格に合わせた出荷になるので、個別に品質確認を行い、取り扱いの有無を決定している。
 - 産直産地との契約がメインであり、もともと、等級、規格については大小込みの規格で販売している。
 - ・ また、売場において値頃感をだすための対応（輸入野菜、国産の代替野菜、ホールから1/2カットにして販売する等）や、カット野菜及び冷凍野菜の販売促進など、どのような工夫をしていますか。
 - レタス・大根・キャベツ等は1/2カット等での販売を中心にするなどで対応。また、値頃感をだすため、中国産のにんじん等を調達している。
 - 価格水準が高い時は、「量目を調整（1/2切等）」、「代替品（カットサラダ等）拡充」を実施する。それでも値頃が出ない場合は輸入野菜の調達に踏切る。冷凍野菜は現在研究中で、国産ニーズが高いことから、扱い店舗を拡大する計画である。
 - カット野菜・冷凍野菜の売場には「野菜高騰中でお買い得」といった販促物を貼付。
 - キャベツは1玉供給を目差す。カットはコスト高で顧客からクレームがでる。
 - 学校、保育園、病院等は国産品を納品。業者（相手様）との対話により中国産を納品。
 - 市況高騰で消費者には冷静な対応を呼びかけている。
 - 豊作の野菜を上手に使う工夫。葉物類は無駄なく使い切る工夫を呼びかけており、ご好評いただいている。
 - 台風被害にあった産地の応援企画を実施して好評。

② ①の販売方法の工夫に対する消費者の反応はどうか。

- 使い切れる量目へのシフトや、料理用途により使い分けるなどの反応が見受けられる。
- 不作でも輸入品を扱わない姿勢は評価されている。
- 消費者ニーズから値頃感を出す為の工夫をするわけであり、概ね好評だと認識している。
- スーパー等も品薄のため、お客様も買い回っている。
- 世帯あたりの人数が減少しているため、1/2カットで販売しても自然に受け入れられており、特に反応はない。

③ 今年の台風は、野菜の主産地である北海道に連続して上陸するなど、野菜に大きな被害がでております。今後も、北海道への台風上陸を始めとして、異常気象による野菜供給への影響がますます懸念されますが、こうした状況において、野菜を安定的に調達・販売を図る上で、販売サイドとして、こういった対応方向が考えられますか。

- 別地区からの新規調達及び生産依頼を進めると共に、代替品となりうる商品（レタスに対しリーフ・ロメインレタス等）開発、冷凍野菜の開発等を検討している。
- 本来は、10月中旬から12月上旬までは、関東近在産の農作物がたくさん出回り安い時期であるが、今年は特に異常気象であったため出遅れている。市場からの供給が100%に近い小売の場合は、気象変動による影響を大きく受けるため、今後も迅速な情報収集が必要である。
- 迅速な情報収集。被害が大きい場合は輸入品の取り扱い。
- 不作時の集荷については、豊作時にどのくらい量を取れるかできまる。日ごろから産地との信頼関係が重要。豊作時や市況低迷時に安定した価格で取引してきたので、優先出荷をお願いしている。
- 過度な選別を廃すとともに、輸送コストも削減して生産者の手取りを上げる工夫。
- 産地又は消費地における中間貯蔵及び長期貯蔵を可能とする施設の必要度が今回のケースを含めて、緊急性をもった対応が必要になっている。
- 最終販売側で特に加工品目での配分変更や品目変更への対応が必要になっている。
- 輸入野菜は、残留農薬等の面で信頼ができないので、輸入数量の扱いを大きく増やすことはリスクが伴う。国産での調達を模索する。

④ 主要6品目以外の野菜で、今冬において注目すべき野菜はどのようなものがありますか。

- ブロッコリーは、サラダ、シチューなど料理用途が広いことから年間通して需要増加。
- さつまいも（安納芋、シルクスイート）、里芋。さつまいもの品種の違いによる食べ方を提案する必要がある。
- にら、小松菜、水菜などの葉物野菜の消費を呼びかけたい。
- サトイモ、ごぼう、レンコンなどの正月野菜の消費を呼びかけたい。

- 西南暖地の果菜類、まめ類は気象災害を受けていないので順調な出荷が見込まれているため、消費を呼びかけたい。
- 胡瓜・トマト・ミニトマト・葱類の主力野菜において供給減が予測されるため、現状からでも対策が必要と考える。
- 鮮度に強みがある産直野菜（きゅうり、トマト、ピーマン、小ねぎ等）を消費者に売り込みたい。